

活動記録



鹿沼市要望(環境省政務官室)



さくら市・「学校給食センターオープニングセレモニー」



さくら市「七夕のつどい」



日光市・「猪倉新町盆踊り」



環境省・奥日光現地調査



日光市・商工女性の皆様と



さくら市・喜連川商工会女性部の皆様と



日光市・建設女性の皆様と



自由民主党

日本を守る。成長を力に。 五十嵐清 国会通信

令和7年 秋号

■国会事務所 〒100-8982 東京都千代田区永田町2-1-2 衆議院第二議員会館 915号室
■地元事務所 〒322-0024 栃木県鹿沼市見舞台25

■ホームページ <https://kiyoshi-igarashi.com/>
■発行所 自由民主党栃木県第2選挙区支部



環境フォーラム
(大阪関西万博)

ごあいさつ

日ごろから、私の政治活動にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、先の参院選の結果により、衆参両院で少数与党となり、非常に厳しい政権運営を強いられております。石破総理の退陣表明を受けての自民党総裁選挙が実施され、10月4日には新総裁誕生の運びとなります。私は、昨年の衆院選の主な敗因は「政治とカネ」の問題、都議選と参院選については何より物価高騰に効果的な対策を打てなかったことにあると考えております。加えて、少数与党となってから、自民党内の必要十分な議論をすることなく、執行部一任を取り付け、野党と個別に必ずしもオープンではない形での話し合いやその結果としての政治判断によって、自民党らしさを失った、我が党の意志や姿勢がまったく国民に伝わらなくなった結果だと承知しております。衆参で少数である以上は責任ある野党のいずれかと政策だけではなく財源を含めての責任を共有できない限り、国政を安定的に進めることはできません。そのために、憲法、外交安全保障、エネルギー政策など、基本政策が一致できる政党と新たな連立の枠組みを築くことが重要と考えております。国民の皆様への期待に応えるべく、挙党体制を構築し、国家運営の全体像や我が国の将来像を力強く示すことができるよう、私も微力ながら全力を尽くして参ります。皆様の引き続きのご支援とご協力を衷心よりお願い申し上げます。

今号では、最近の選挙区内の地域課題への取組についてご報告させていただきます。



環境大臣政務官
衆議院議員

五十嵐 清

鹿沼市

地域医療に対する
支援を拡充

鹿沼市においては地域医療の充実に取り組みました。鹿沼地区の拠点病院である上都賀総合病院は、地域内の救急医療の約7割に相当する年間約2,100件の患者に対応するとともに、24時間体制の分娩や市内3地区のへき地医療を担っています。しかしながら、近年では、医師不足や物価・人件費の高騰、患者数の減少により、持続的な運営が厳しい状況に陥っておりました。私は、運営母体であるJA上都賀厚生連からの要望を受け、厚生労働省と支援策について検討すると同時に、自民党鹿沼市議団と連携を図り、鹿沼市に財政支援を働きかけて参りました。その結果、9月の鹿沼市議会において、本年度から3年間、上都賀総合病院へ年間5,000万円の財政支援をおこなうことが決まりました。このうち55%が国からの特別交付税であり、①2次救急体制の強化、②産科の維持、③へき地診療の継続を対象に活用されます。今後は、国の総合対策の一環として県が実施する医師偏在対策支援を導入し、鹿沼市西部地区の医療提供体制を強化できるよう努めてまいります。

厚生連の要望活動



日光市

国道121号の
防災対策

日光市では、国土強靱化の代表事例となる大型プロジェクトに着手しました。国道121号では、これまで、落石や倒木、土砂流出などの自然災害による通行規制がたびたび発生しており、平成27年の関東・東北豪雨では15日間の全面通行止めが発生し、川治温泉等が一時孤立状態に陥りました。これらを踏まえ、「国道121号 日光・川治防災」として、日光市五十里から川治温泉川治に至る延長3.4kmの防災対策事業（総事業費500億円）を、平成31年度に事業化しました。新設トンネルが既存の3つのトンネルと交差し、しかも近接施工となることから技術的難易度が非常に高く、これまで各種調査や最適工法の検討に時間を要してきましたが、今年度ようやく川治地区改良工、橋梁下部工事に着手する運びとなりました。当該事業の整備により、日光市街地方面への迂回路が形成され、異常気象時の川治温泉街の孤立解消や、大型車の利用ルートが転換され、

川治温泉街における通過交通の減少が期待できます。同時に、国道121号は山形県米沢市から福島県喜多方市、会津若松市を經由し、日光市に北方面からの観光客を期待させるものです。引き続き、皆様のご理解ご協力を得ながら、早期に開通することが出来るよう、事業を全力で推進してまいります。



塩谷町

県内初の
医療マース導入

人口が9,000人台の塩谷町では、おおよそ3名の医師（診療所）が必要と試算されていますが、町内の医師の高齢化や後継者の問題もあり、町としての中長期的な医療提供体制の維持・確保が課題となっています。そのような中、塩谷町は今年度から総務省の交付金を活用して「保健福祉マース」を、来年度からそれを充実発展させ「医療マース」を導入することになりました。医療マースとは、遠隔通信機器を搭載した車両で町内の公共施設等を巡回し、医療サービスを提供するもので県内では初の試みです。AI技術を活用して、国の総合対策の一環として県が実施する医師偏在対策支援を導入し、医療提供体制を強化できるよう努めてまいります。提供されるサービス内容は、①遠隔診療器や簡易の超音波機を活用し町内外の医師が診療や問診、②診察したデータを薬局へ送り処方箋を宅急便で郵送、③必要があれば高度な医療機関への紹介状を書くなど、新たな医療提供体制を構築していきます。今後とも、町と町内診療所の医師からなる地域医療懇談会の意見・要望も踏まえ、国の総合対策の一環として県が実施する医師偏在対策支援を導入し、塩谷町の医療提供体制を強化できるよう努めてまいります。

福祉マース
車両体験

五十嵐議員も
自ら体験



さくら市

さくら・塩谷
スマートIC計画

さくら市においては交通インフラ、具体的には高速道路スマート・インターチェンジ整備に取り組み始めました。スマートICは首都圏とのアクセス向上にともなう企業立地による就業機会の増加、観光振興による地域経済の活性化および定住人口の増加など、地域振興の起爆剤になり得ると考えております。また、近年、全国的に気候変動による自然災害が激甚化・頻発化していますが、特に災害発生時における緊急輸送路の確保や迅速な復旧、日常生活および経済活動の早期再開を図るためには、道路ネットワークの強化が不可欠であり、広域交通と地域交通の結節点となるスマートICの重要性は増してきております。そのような中、さくら市中村市長・塩谷町見形町長からの要望を受け、今年度から国土交通省ならびに栃木県と連携を取り、事業実現に向けて動き出しました。本年6月には国土交通省に第1回目の相談会で事業構想の概要について説明してきました。今後は、年明けに具体的な事業計画を専門事業者に委託し、令和8年7月には第2回目の相談会に臨む予定です。さくら市・塩谷町スマートICの早期完成に向けて全力で取り組みます。



高根沢町

地元産材でつくる
新庁舎

高根沢町については、新庁舎整備に国の支援策を導入することで応援しています。今春も栃木県木材業協同組合連合会から、高根沢産材を活用して街の象徴となる新庁舎建設の要望がありました。国も、脱炭素社会への移行を目指し、さらなる国産材利用を促進する立場から、令和3年に法改正によって公共建築物のみならず民間の建築物にも対象を拡げ、様々な支援策を用意しました。木協連からの要望内容は、躯体の木造化、内外装の木質化、木製の物品や外構にいたる幅広い町産材の利用です。木協連が擁する「木材コーディネーター」の活用で、とちぎ材製品の種類、規格、価格等の情報共有から、効果的な使用方法、スムーズな調達に至るまで、設計・建築に必要な知識・ノウハウを発注者に提供することができます。実際に、県内でも地元や上流域の木材を活用して、保育園や学校施設などが木協連のコーディネーターとの連携で

木造化・木質化を実現しています。木材利用の範囲については、町や町議会の判断となりますが、私は環境省や林野庁の支援制度を最大限活用して、町の財政負担を極力抑えながら、魅力的な庁舎となるように引き続き力を尽くします。

宇都宮市
(旧河内・上河内町)宇都宮市の盛土
安全対策

宇都宮市では、住宅地周辺（具体的には、叶谷、横山、鶴田の3地区）における土石流や大規模崩落の発生を未然に防ぐ、対策工事を実施してきました。令和3年の静岡県熱海市での大雨による盛土造成地の大規模崩落ならびに土石流の発生により、令和5年に「盛土規制法」が制定されました。これを受け、宇都宮市は、まずスクリーニング調査で84ヶ所の大規模盛土造成地を抽出、現地調査により15ヶ所に絞り込み、地質調査や安定計算、物理探査や地質調査を経て3地区で緊急的な対策工事（総額16億7千万円）が必要となりました。事業要望の直前に、国土交通省の事業による補助率は拡充されたものの、事業費の上限があるため、宇都宮市の持ち出し金額が非常に大きくなってしまいます。市長および地元市議より、補助対象事業の上限額の引き上げによる、財政負担軽減の要望を受けましたので、国土交通省との折衝を重ね、補助率の上乗せが実現し、宇都宮市での事業実施が決まりました。いずれの地区も地盤強度が低く、震度5弱相当の揺れで崩壊するリスクがあると診断されていましたが、鶴田地区が24年度に完了し、叶谷地区と横山地区は25年度に整備完了となります。今後とも、安全・安心の確保に全力を尽くします。

